

「みなとオアシスひらら」 「みなとオアシスいしがき」が 新規登録されました

NO.8



【開発建設部】

みなとオアシスとは？

国土交通省港湾局では、地域住民の交流や観光振興を通じて地域活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われている施設を「みなとオアシス」として登録しており、平成15年からこれまでに115箇所の施設が登録され、地域の活性化に寄与しています。（平成30年7月16日現在）

「みなとオアシス」に登録されると

みなとオアシス標章の使用や国土交通省、沖縄総合事務局のホームページでの情報発信などの広報支援を受けることができます。また、みなとオアシスを構成する港湾施設を整備する場合は社会資本整備交付金の優先的な配分やインバウンドに対応した施設の場合には観光庁の訪日外国人旅行者受入基盤整備事業などの補助メニューも用意されています。さらには、みなとオアシス全国協議会へ加入することができ、全国のみなとオアシスと連携した取り組みが可能となり、「みなとオアシスSea級グルメ全国大会」への参加など全国規模の催しで地元のみなとをPRし、地域活性化の取り組みとしても活用が可能となります。

みなとオアシスが担う役割

- ・地域住民、観光客、クルーズ旅客などの交流及び休憩機能
- ・地域の観光及び交通に関する情報提供機能
- ・その他災害時の支援、商業機能

みなとオアシスの構成施設

- ・旅客ターミナル・地元産品の販売

飲食店・文化交流施設など

「みなとオアシス」の設置者・運営者

- ・地方公共団体（港湾管理者含む）やNPO団体、協議会など



※「みなとオアシス」の関連情報については下記URLからもご覧いただけます。

- ・国土交通省港湾局HP
http://www.mlit.go.jp/kowan/kowan_tk1_000001.html
- ・一般社団法人ウォーターフロント協会HP
<http://www.waterfront.or.jp/oasisu/index.html>

この度「平良港マリナターミナル」を代表施設とする「みなとオアシスひらら」が全国116箇所目、「ユエグレナ石垣港離島ターミナル」を代表施設とする「みなとオアシスいしがき」が全国117箇所目の「みなとオアシス」として国土交通省港湾局長が登録し、活動を開始することになりました。2017年クルーズ船寄港回数が132回で全国第5位（石垣港）、同じく130回で第6位（平良港）と上位にランキングし、ますます賑わいを見せる両港において、地域住民の交流促進や観光の拠点として、今後も「みなと」を核としたまちづくりを推進します。

「みなとオアシスひらら」の紹介



「みなとオアシスひらら」は平成5年6月に宮古島市によって整備された「平良港マリナターミナル」を代表施設



▲代表施設：平良港マリナターミナル



▲構成施設：パイナガマビーチ

◎登録証交付式

7月15日に開催された「平良港みなとフェスタ2018」において、島尻安伊子沖縄担当大臣補佐官、儀間光男参議院議員ら多くのご来賓参加のもと、みなとオアシス登録証の

とし、宮古島市各方面への路線バスの結節点となっているほか、沖泊寄港のクルーズ船のテンドーボートが浮き桟橋を利用して上陸する場所となっており、臨時CIQ（税関・出入国管理・検疫）手続きや観光案内、おもてなしイベントが行われるなど、クルーズ観光の拠点にもなっています。施設周辺は無料Wi-Fiスポットが整備され、旅客の満足度向上につながっています。毎年夏に開催される「平良港みなとフェスタ」は多くの人々で賑わうなど、市民と観光客の交流拠点、情報発信拠点としての機能を有しています。

また、「みなとオアシスひらら」の構成施設である「パイナガマビーチ」は「平良港マリナターミナル」から徒歩5分程度に位置し、宮古島のビーチの中でも最も市街地に近いため、多くの人々に利用されており、毎年6月（旧暦5月4日）には航海安全と豊漁を祈願する伝統行事「ハーリー（海神祭）」が開催され、地元住民や観光客の交流拠点として親しまれています。

交付式が行われまし

式では、

登録者である国土交通省港湾局長に代わり中島靖内閣府



▲中島靖内閣府副大臣から下地敏彦市長へ登録証を交付

沖縄総合事務局開発建設部長から下地敏彦宮古島市長へ登録証が交付されました。交付を受けた下地市長は、登録に対して感謝の意を述べるとともに、今回の登録を励みに、今後見込まれるクルーズ需要にしっかりと対応できるよう関係機関と協力して取り組んでまいります。

また、来賓として祝辞を述べた島尻安伊子大臣補佐官から「今回の登録は平良港周辺と一体化したまちづくりを進める契機となり、宮古島の観光振興や地域活性化の拠点として平良港が大きな役割を担っていくことが、今後ますます期待されます。内閣府として引き続き、ハード・ソフト両面から積極的に支援してまいります」とのお言葉がありました。

交付式ではアトラクションとして地元竹の子保育園の園児が元気いっぱいの花を舞で式に花を添え、関係者による記念撮影が行われました。また、同日開催された「みなとフェスタ2018」では海上巡視



▲設置者として挨拶する下地敏彦市長
左上／来賓祝辞を述べる儀間光男参議院議員
左下／来賓祝辞を述べる島尻安伊子大臣補佐官



▲上/構成施設 石垣港旅客船ターミナル
左下/代表施設 ターミナル
左下/構成施設 新港地区緑地(南ぬ浜緑地公園)



▲上/海の生き物タッチプール 下/園児とともに記念撮影

観光客で賑わいます。

「みなとオアシスいしがき」は平成18年12月に石垣市によって整備された「ユーグレナ石垣港離島ターミナル」を代表施設とし、竹富島・西表島・小浜島・黒島など周辺離島航路の拠点となっており、地元住民の暮らしやビジネスの拠点として、さらには観光客の移動の結節点として年間200万人を超える人々が利用しています。また、大型クルーズ船が沖泊寄港する際は、テンドーボートによる上陸場所として活用されており、八重山圏域の観光振興を支える玄関口として、一年を通して多くの利用者が賑わっています。

「みなとオアシスいしがき」の構成施設である、「石垣港旅客船ターミナル」は石垣港新港地区に位置し、クルーズ船専用岸壁として本年4月21日に暫定供用され、7万トン級までのクルーズ船を受け入れることが可能となりました。同じく構成施設の「新港地区緑地」は「南ぬ浜町緑地公園」として親しまれており、毎年夏に開催される「南の島の星まつり」は夏の風物詩として定着し、多くの市民、観光客で賑わいます。

「みなとオアシスいしがき」の紹介



▲右上/設置者として挨拶する中山義隆市長
右下/来賓祝辞を述べる島尻安伊子大臣補佐官
左上/来賓祝辞を述べる廣間光男参議院議員
左下/来賓祝辞を述べる伊波洋一参議院議員

7月16日に開催された「2018石垣港みなとまつり」において、島尻安伊子沖縄担当大臣補佐官、儀間光男参議院議員、伊波洋一参議院議員ら多くの来賓が参列のもと、みなとオアシス登録証の交付式が行われました。

「みなとオアシス」と題して行われた船上ステージでのプログラム冒頭で行われた交付式では、はじめに登録者である国土交通省港湾局長のご挨拶を中島靖内閣府沖縄総合事務局開発建設部長が代読し、その後、来賓の皆様より祝辞が述べられました。

儀間光男参議院議員は「沖縄県、八重山圏域は島嶼であるが故に、港湾、空港の重要性が高くなります。今後、アジアのゲートウェイとして一層重要な役割が求められており、登録を機に石垣港がますます地域に親しまれる港になることを祈念します。」と祝辞を述べられました。

続いて、中島靖沖縄総合事務局開発建設部長から中山義隆石垣市長へ登録証が手渡され、登録証を受け

取った中山市長は「物流の玄関口であり、全国でも有数の外航クルーズ船の寄港地として賑わいのある石垣港において、今後も利用者への適切な情報提供やイベントの充実などを通して、ますます地域や観光客に親しまれる「みなとオアシス」になるよう取り組んでまいります。」と述べられました。

登録証交付式



▲中島靖開発建設部長から中山義隆市長へ登録証を交付

沖縄本島北部に位置し、本部港渡久地地区、本部地区、水納港の各旅客ターミナル、「アジマーもとぶ」、「谷茶公園」、「もとぶマーケット」、「もとぶ元気村」で構成されています。本部港には官民連携による国際クルーズ拠点の整備が進められており、沖縄北部観光の拠点として期待されるみなとオアシスです。

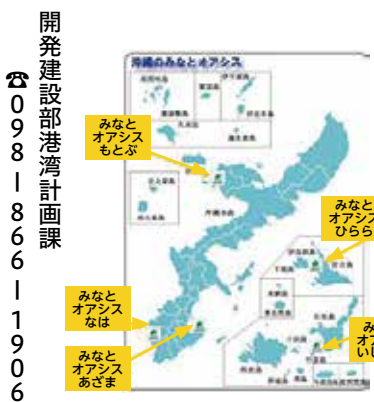
今回の「みなとオアシスひらら」・「みなとオアシスいしがき」の登録で県内のみなとオアシスは5箇所となりました。それぞれのみなとオアシスでは地域住民と観光客の交流促進や情報発信をはじめ、地域の特性を活かした賑わい創出など、住民参加による「みなと」を核としたまちづくりが進められています。

登録証交付式に引き続き、ステージでは地元バンドや八重山民謡ライブが行われ、多くの市民や観光客で賑わいました。

取った中山市長は「物流の玄関口であり、全国でも有数の外航クルーズ船の寄港地として賑わいのある石垣港において、今後も利用者への適切な情報提供やイベントの充実などを通して、ますます地域や観光客に親しまれる「みなとオアシス」になるよう取り組んでまいります。」と述べられました。



▲船上ステージにて記念撮影



沖縄最大の玄関口である那覇に設置されたオアシスで、「那覇クルーズターミナル」を代表施設とし、「那覇ふ頭旅客待合所」、「波の上ビーチ」、「波の上うみそら公園」、「若狭海浜公園」、「三重城小舟溜」、「泊いゆまち」、「とまり緑地」で構成されています。2017年クルーズ船寄港回数が224回と全国第3位となった那覇港の周辺に点在する各施設では年間を通して様々なイベントが開催され、観光・交流の拠点として賑わっています。

沖縄最大の玄関口である那覇に設置されたオアシスで、「那覇クルーズターミナル」を代表施設とし、「那覇ふ頭旅客待合所」、「波の上ビーチ」、「波の上うみそら公園」、「若狭海浜公園」、「三重城小舟溜」、「泊いゆまち」、「とまり緑地」で構成されています。2017年クルーズ船寄港回数が224回と全国第3位となった那覇港の周辺に点在する各施設では年間を通して様々なイベントが開催され、観光・交流の拠点として賑わっています。

沖縄本島南部の東海岸に位置し、「あざまサンサンビーチ」を中心に、体験滞在交流センター「がんにゅう駅・南城」、「海の館・イノ」で構成されています。琉球開闢神話が残る神の島「久高島」への拠点である「安座真船待合所」は久高島住民をはじめ、多くの観光客に利用されているほか、「あざまサンサンビーチ」には約年間6万人を超える人々が訪れ、バーベキューなどを楽しんでいます。

「みなとオアシスなは(那覇港)」

「みなとオアシスあざま(中城湾港安座真地区)」